

オノマトペ「バキバキ」「バッキバキ」の多義分析とその用法

矢野, 耕平 / YANO, Kohei

(出版者 / Publisher)

法政大学大学院 国際日本学インスティテュート専攻委員会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

国際日本学論叢 / Journal of International Japanese-studies

(巻 / Volume)

21

(開始ページ / Start Page)

76

(終了ページ / End Page)

97

(発行年 / Year)

2024-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030998>

オノマトペ「バキバキ」「バッキバキ」の 多義分析とその用法

矢野 耕平

1. はじめに

次の発話の傍線部が引かれているオノマトペ¹「バキバキ」あるいは「バッキバキ」の意味を考えてみてほしい。

- (1) お前、目えバッキバキやで。(『ダウンタウン DX』2022年12月22日放映／日本テレビ系)
- (2) ほくはバキバキ童貞です。(『ABEMA ヒルズ』2019年4月9日放映／AbemaTV)

『デジタル大辞泉 第二版』（小学館）では次のように記されている。

「ばき-ばき」

¹「オノマトペ (onomatopēe)」とは、フランス語由来の外来語であり、もとは古代ギリシア語の「onoma (名前)」と「poiein (作る)」が合体したもの。日本語でいうところの「擬音語」(物が発する音を模倣した語。人間や動物などの声を模した「擬声語」は「擬音語」の一種)と「擬態語」(物事の状態や、身ぶりや行動などを模倣して言語化した語)に加え「擬情語」(内的な感覚・感情を言語化した語)の3種がオノマトペに相当する。

1. 堅い物が砕けたり、連続して折れたりする音。また、そのさまを表す語。
2. 筋肉がこわばるさま。

また、オノマトペについての辞書類を調べたところ、『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』（講談社、2003年）では、「ばきばき」を以下の4種類に分けて記述していた。

「ばきばき」

- ①かたい物などが、折れたり壊れたりする音や様子。また、整体などで、骨や関節などを鳴らす音や様子。「枯れ木がバキバキと音を立てる」「力任せに骨をバキバキさせる」
- ②何かが振動したり、軋んだりして立てる音。「車の窓がバキバキする」
- ③凝り固まっている様子。「首筋がバキバキ」
- ④勢いよく物事を進める様子。「バキバキ仕事をする」

『デジタル大辞泉』の1. は『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』の①に、2. は③の意味に相当するため、「バキバキ」「バッキバキ」の意味については『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』に記載されていた4種類（①～④）をベースに考えることとする（以下、この①～④を「旧用法」と呼ぶ）。

ここで冒頭の例文（1）、（2）に戻りたい。（1）は、東京のお好み焼き屋に入ったお笑いコンビ・メッセンジャーの黒田^{たもつ}有氏がその値段の高さに驚愕したと言い、「大阪で豚玉1200円やったら暴動起きるでしょ！」とヒートアップしたところを、お笑いコンビ・ダウンタウンの松本人志氏に「お前、目えバッキバキやで」と突っ込みを入れられるシーンである。この場

合の「バッキバキ」とは、「(興奮のあまり) 過剰に目を剥いている状態」を示しているのだろう。Google ニュースなどで検索すると、ここでの「バッキバキ」はお笑いの世界でよく散見される。たとえば、お笑いコンビ・かまいたちの山内健司氏が、アイドルグループ Kis—My—Ft2 の藤ヶ谷太輔氏に「目バッキバキなちょっと凶器じみているネタは、いま、(かまいたちの) ほかにいらっしゃらないですよね?」と尋ねられると、「確かに、そう言われるようになったんですけど、自分らでは気付いてなかったんです。東京に来たときにタモリさんから『お前、目が怖いよ!』と言われたのが最初なんですよ」(スポーツニッポン 2022 年 12 月 17 日配信記事) と回答している。

(2) は、Ameba TV のニュース番組「ABEMA ヒルズ」の特集企画「性交渉経験率と収入に相関関係 未経験者に聞いた」の 1 コマにおける取材対象者の男性 (30 歳) の発話である²。30 代で性交渉未経験者の割合は約 1 割であるという調査結果を東京大学大学院の研究者らが発表し、この結果を受けて、番組が街頭インタビューを試みたときのことである。女性インタビュアーが「日本は世界と比較して童貞処女率が高いという結果になっているが、これについてどう思うか?」との問いかけに対し、取材を受けた男性が「誠に遺憾です。残念です」と答えた直後、インタビュアーから「ご自身は?」と問われ、「ぼくはバキバキ童貞です」と回答した。発話の際のこの男性の表情から「バキバキ」をプラスのニュアンスで用いているように見えた。実際に、この男性は「アダルトビデオで童貞の男に初体験させるという趣旨の企画が眼前でおこなわれていて、ひょっとした

² この男性はお笑いコンビ「春とヒコーキ」の「ぐんぴい」こと山口大樹氏。この「ABEMA ヒルズ」の取材を街頭で偶然受けたその画像が SNS 上で拡散され話題となった。この「バキバキ童貞」という表現が世間に広まったことをきっかけに自身で YouTube チャンネル「バキ童チャンネル【ぐんぴい】」を開設。2023 年 7 月 1 日時点で登録者数 73.7 万人を有するチャンネルになっている。

ら自分も女性と肉体経験が結べるかもしれないとワクワクしたから」といった主旨のことを後に述懐していることから、この場合の「バキバキ」は、「正真正銘の／真正の／典型的な」といった肯定的なニュアンスを持った意味になると考えられる。本稿で取り上げるには品位に欠ける例に感じられるかもしれない。しかしながら、注釈にあるようにこの男性の発言が世間の話題となり、瞬く間に拡散されたことや、「バキバキ」で検索するとこの事例が上位に表示されることを踏まえると、決して無視できない事例である。

さて、ここで気づくことがある。(1)、(2)の「バキバキ」「バッキバキ」の意味に相当するものが旧用法の中に見出すことができないのである。すなわち、これらは「バキバキ」「バッキバキ」の新用法であると考えられる。

そこで、本稿では「バキバキ」「バッキバキ」を旧用法と新用法に大別し、それぞれの多義を分析していきたい。その際、靱山（2021など）が提唱する多義語分析の次の4つの課題に基づくこととする。なお、この「バキバキ」ならびに「バッキバキ」について意味分析した先行研究は管見の限り存在しない。

- 1) 何らかの程度の自立性を有する複数の意味の認定
- 2) プロトタイプの意味の認定
- 3) 複数の意味の相互関係の明示
- 4) 複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明

なお、「バッキバキ」は「バキバキ」という重複形オノマトベに促音を挿入することで意味的に強調しているに過ぎないと考えられるため（たとえば、「キラキラ」→「キッラキラ」、「ポコポコ」→「ポッコポコ」など）、ひとまずは両者について区別することなく取り扱うものとする。

2. 「バキバキ」「バッキバキ」旧用法の多義分析

まず、『暮らしのことは 擬音・擬態語辞典』に記述されている4つの意味を旧用法として、それらの意味を整理するとともに、それぞれの分析、ならびにプロトタイプの意味の認定をおこなう。

旧用法 A：〈かたい物などが折れたり壊れたりする音や様子〉

- (3) そこらに落ちている枯れ木を拾って、武蔵は膝に当ててバキバキと折り始めた。(吉川英治『宮本武蔵 水の巻』)
- (4) バキバキと骨が折れても心臓マッサージは続く…救急科の看護師が目を背けなくなった「延命治療」の壮絶さ(『プレジデント Online』2022年7月27日配信記事)
- (5) いくら子どもからの約束ではあっても、ゲーム機をバキバキ折るのはほめられませんね。(尾木直樹『尾木ママ オフィシャルブログ』2016年2月25日配信記事)

オノマトペの一種である擬音語とはオノマトペのプロトタイプとも形容でき、その証左として今井・松田(2023)は、フランス語の「onomatopée」や英語の「onomatopoeia」は、ヒトや動物の声や物音を模した擬音語のことであると指摘する。実際、この旧用法 A はモノが折れる音を言語化したものである。なお、この意味で用いる場合、一度折れたり壊れたりしたものは「修復不可能」である。

そして、この旧用法 Aこそが「バキバキ」「バッキバキ」のプロトタイプの意味となる。李(2020)によると、木下(2019)は多義語の複数の意味の中には中心性を持つ語義(別義)とそうではない語義があるとし、松本(2009)を踏まえて、その中心性には「直観的プロトタイプ³」と「意

味拡張の起点」という二つの種類が認められるとする。この旧用法 A は双方を満たすと考えられる。理由としては、オノマトペの起点が擬音語に相当するという点であり、もう一つは、筆者が 2023 年 6 月 29 日に Twitter（現「X」）のアンケート機能を活用して「バキバキ」から直観的に浮かぶ意味を選択式で問うたところ、旧用法 A の票が最も多かった点である（図 1）。

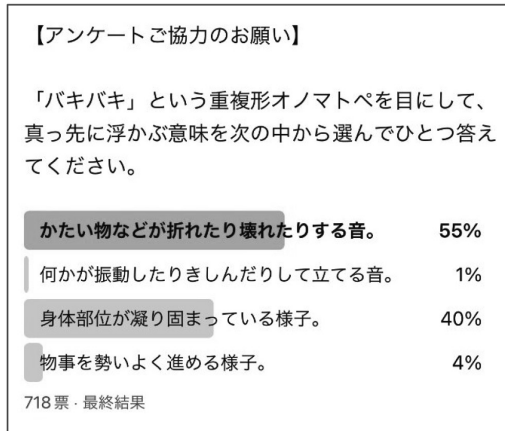


図 1 「バキバキ」旧用法のアンケート結果

旧用法 B：〈何かが振動したり、軋んだりして立てる音〉

(6) 全体のときのバキバキ音はなに？（『整体サロン・コリウス（COLEUS）のブログ』2023 年 4 月 18 日配信記事）

(7) アパートのエアコンがバキバキ音を立ててうるさいです。（『Yahoo! 知恵袋』2015 年 11 月 29 日）

³「直観的プロトタイプ」は榎山（2021）の提唱する用語であり、「ある言語のある語の複数の意味の中で、母語話者（の大半）にとって、最も基本的な意味であると直観的に感じられる意味」と定義している。

- (8) 運転席のパワーウィンドウの開け閉め時、バキバキと音が鳴りだした。(ブログ『ストラタミンカラ手帳』2011年7月13日)

こちらも旧用法 A 同様に擬音語として使われる。ただし、旧用法 B が A と異なる点は、ある物が振動したり軋んだりしたとしても、それらは損壊されることを意味せず、修復可能であることである。このような意味で、『暮らしのことは 擬音・擬態語辞典』では「骨や関節の折れた音」は旧用法 A のひとつとしていたが、これらは「修復可能」であるという理由で、B に相当するものとして考える。

この旧用法 B の〈何かが振動したり、軋んだりして立てる音〉が行き過ぎると「折れたり壊れたり」するため、旧用法 B は A と因果関係で結びつくメトニミーによって意味拡張するという見方もできそうだが、この場合は擬音語としての性質が強く、実際には破損しないものの、何かかたい物などが折れたり壊れたりするときと似たような音を立てるという旧用法 A からのメタファーによる意味拡張と考えられる。

旧用法 C : 〈身体のある部位が凝り固まっている様子〉

- (9) バキバキ背中をほぐして睡眠の質アップ！1日の疲れをとるベッドストレッチ。(『ヨガジャーナル Online』2023年6月27日配信記事)
- (10) 『1分でバキバキ肩こりがスッキリ！山内流肩甲骨はがし』(書籍タイトル／宝島社 MOOK；2022)
- (11) 疲れが取れない原因は「座り方」にあった…首・肩・腰が「バキバキになる人」と「ならない人」の決定的な差。(『プレジデント Online』2023年6月22日配信記事)

身体の一部が疲れやストレスのために凝り固まっている状態を示す擬態語として「バキバキ」が使用されている。身体のある部位が凝り固まると、結果として「骨や関節の折れたような音」がするという意味で、この旧用法Cが原因、旧用法Bが結果の関係性となる。よって、旧用法CはBからのメトニミー的意味拡張であると捉えられる。「仮に〈何かが振動したり、軋んだりして立てる音〉を身体のある部位に働きかけるときとこうなるだろう」という条件的メトニミー⁴であると言い表すこともできる。

旧用法D：〈物事を勢いよく進める様子〉

(12) 3時間バキバキに集中して働いて（普段の2倍速くらいで）、あとは適当に仲間とダラダラ話したりお茶飲んだりするワークスタイルが理想。

(<https://twitter.com/yousuck2020/status/1080848838976393217>)

(13) 【新小6生】『小6算数&中受算数』をバキバキ進める！

(ブログ『進学塾プロフェッショナル』2022年4月5日配信記事)

(14) バキバキにアレンジした超ハイクオリティなトランスフォーマーを海外でのみ販売している

「FLAMETOYS」って何者？（『電撃ホビーウェブ』2021年8月13日配信記事）

⁴ 篠原・秋田（2019）によると、オノマトベに顕著に見られる意味拡張として、いわゆる「虚構的」なメトニミーがあり、この種のメトニミーは日本語における多義オノマトベの40%強に見られるという。「虚構メトニミー」とは仮想の事象を参照することにより、その事象における対象物の状態を描くもので、「条件的メトニミー」と「痕跡的メトニミー」に二分される。前者は「仮に対象物に働きかけた場合にこうなる」という未実現の事象を想定するメトニミーであり、後者はあたかも「対象物に変化を被った結果としてこうなった」かのように実現済みの事象を想定するメトニミーである。

旧用法 A と C が否定的な意味として位置づけられるのに対して、旧用法 D は肯定的な意味に転じて用いられている。この転用には旧用法 A 〈かたい物などが折れたり壊れたりする音や様子〉からメタファーによって意味拡張がなされていると考えられる。〈「枝」などを折っていく〉というその「枝」を「障害物」や「タスク」「課題」と類似性を持つものと捉えた結果、〈幾つもの物事を勢いよく処理する〉という意味が生じたのだろう。

ここまでのまとめとして、旧用法の 4 種類の多義構造を下に図示する(図 2)。

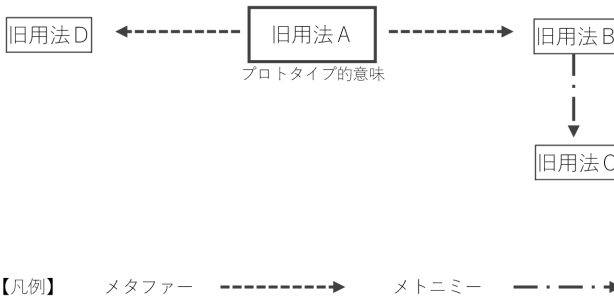


図 2 「バキバキ」の旧用法の多義構造

3. 新用法の多義分析

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)で「バキバキ」「バッキバキ」を検索したが、そこに登場した用例はすべて旧用法 A～D のいずれかであった。この検索システムは 2008 年までの書籍や雑誌、新聞、白書、ブログなどのデータが収められている。そのため、BCCWJ にその存在を認められない「バキバキ」「バッキバキ」の意味は、2009 年以降に新たに生まれた可能性の高い「新用法」と考えられる。それらを以下に示すこととする。メディア記事や Twitter などを検索した結果、次の 4 種類を新用

法として見出すことができた。

新用法 E：〈腹筋がたくましく割れている様子／肉体が強靱な様子〉

(15) 最速でバキバキの腹筋を作る鬼の腹筋トレーニング。

(YouTube チャンネル『まめたまの筋トレ日記』2021年12月11日公開)

(16) 2度の盲腸に苦しみながらも、筋トレ YouTuber サイヤマンが バキバキな身体でボディビル入賞を果たす！（『FITNESS LOVE』2023年6月29日配信記事）

(17) 「筋肉やばっ」「彫刻のよう」浅野拓磨のバキバキボディに影響！

(『サッカーダイジェスト Web』2023年6月27日配信記事)

(18) 腹筋をバキバキに鍛えるお腹痩せトレーニング4選。（『MELOS』2023年6月12日配信記事）

Google ニュースで「バキバキ」「バキバキ」を検索してみると、メディア配信記事のタイトルで最も多く見られるのがこの新用法 E である。これは旧用法 C 〈身体のある部位が凝り固まっている様子〉という否定的な意味に位置付けられるものが、〈腹筋が固くなる→筋骨隆々としている→肉体が強靱である〉という肯定的意味として転義したものと考えられる。隣接性に基づくメトニミー的意味拡張であるといつてよいだろう。

もう1つは、旧用法 A 〈かたい物などが折れたり壊れたりする音や様子〉で、何かかたい物が割れてしま砕けてしまった様子を、腹筋の「割れ目」になぞらえている可能性もあるが、この転義は飛躍し過ぎのように感じられてしまうため、新用法 E を先の旧用法 C からの転義として考える。

新用法 F：〈滅茶苦茶に／酷く／恐ろしく〉

(19) 久々に心バッキバキに折れた。仕事にならんかった。こんなに何時間も泣いたことあったか？

(<https://twitter.com/rurumudal422/status/1670806854497185798>
／2023年6月19日)

(20) 恋に落ちて告白したら「誰？」言われてバキバキにふられるやつじゃん！

(<https://twitter.com/sacchan0408/status/1085099243835015169>
／2019年1月15日)

(21) 新刊に誤植があるのバキバキに凹む。

(https://twitter.com/osushi_survival/status/1116003686101078016
／2019年4月11日)

この新用法 F については、旧用法 A 〈かたい物などが折れたり壊れたりする音や様子〉を「心」という精神面に適用したものと捉えられる。〈折れたり壊れたりする様子〉を本来は形のない精神に適用することで〈滅茶苦茶に／酷く／恐ろしく〉といった否定的な意味を生み出しているという点を踏まえると、この場合メタファーによって意味拡張が成立していると思われることができる。

新用法 G：〈(目が) 過剰に冴えわたったり、血走ったりする様子〉

(1) お前、目えバッキバキやで。(『ダウントウン DX』2022年12月22日放映／日本テレビ系)

(22) 店長の村田君は周年初日なのにもう目がバキバキでした。

(<https://twitter.com/roadtorun/status/1675309878213251073>
／2023年7月2日)

(23) 第2子出産の田中理恵、新生児育児に奮闘「目、バキバキですね」
「気持ち入ってますね」

(『オリコンニュース』2023年6月16日配信記事)

こちらは旧用法C〈身体のある部位が凝り固まっている様子〉を「目」に限定して適用した隣接性に基づくメトニミー的拡張がなされていると考えられる。(1)、(22)の例文にあるように、そもそもは〈(興奮のあまり)過剰に目を剥いている状態〉と〈(身体は疲れ切っているが)目だけは大きく見開いていて、血走っている状態〉といったやや病的な様態を示すことが多かったが、最近(23)の例文にあるように〈張り切っているあまり、奮闘するあまりに、目力が強くなっている〉という意味でも使われるようになってきている。実際、2023年6月15日にTwitter(現「X」)で「目がバッキバキだ」の意味を問うたところ、目が「疲れ切っている」とする見方と目が「元気に牙え渡っている」とする見方に分かれていることが理解できる(図3)。

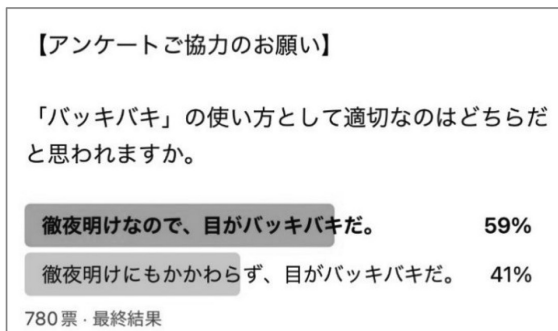


図3 「目がバッキバキだ」の意味を問うアンケート結果

新用法 H：〈正真正銘の／真正な／真の／王道の／典型的な〉

- (2) ほくはバキバキ童貞です。(『ABEMA ヒルズ』2019年 9月 9日放映
／AbemaTV)
- (24) バキバキのダンスミュージックを教えてください。(『Yahoo! 知
恵袋』2012年 2月 1日)
- (25) カレー通絶賛! バキバキのスパイスカレー。
(『cookpad』レシピ ID：6663012 / 2021年 2月 20日公開)
- (26) パフォーマンス中はバッキバキでかっこいいけど普段はポンコ
ツで可愛い私の推し様です
(<https://twitter.com/hari20220704/status/1673235626861408256>
／2023年 6月 26日)
- (27) バキバキ天然水! (SUNTORY 天然水『THE STRONG』のキャッ
チコピー / 2022年 6月発売)

新用法 H については、旧用法 A～D、新用法 E～G のいずれかからメ
タファー的、あるいはメトニミー的に拡張して生まれた意味と捉えること
は一見できないように感じられる。筆者は否定的意味として位置づけられ
る新用法 F 〈滅茶苦茶に／酷く／恐ろしく〉が肯定的な意味へと転義して
新用法 H 〈正真正銘の／真正な／真の／王道の／典型的な〉が生まれたも
のを考える。

否定的意味の中で用いられた語が肯定的な意味を通時的に獲得する例は
幾つか見受けられる。

たとえば、「しんどい」という日本語形容詞を取り上げてみたい。

- (28) 仕事がしんどい! 見逃してはいけない心と体の SOS とリフ
レッシュ方法。(『JOBPAL』2022年 8月 16日配信記事)

(29) 板東くんヒーローインタビュー、かっこいいと可愛いがごちゃ混ぜでしんどい。

(https://twitter.com/pyagi_sh/status/1676559908630827008 / 2023年7月5日)

(28) の「しんどい」は「ひどく疲れを感じるさま／つらい」という否定的なニュアンスを含んだ意味となる。その一方、近年は (29) にあるような肯定的用法が散見される。この場合、「その魅力にとりつかれる」といった意味がある。

この手の否定的な意味を持つ語が肯定的な意味へと転じる代表格として挙げられるのは「やばい」であろう。

(30) 「止まらない」「やばいやばい」運転手叫び乗客悲鳴…バス横転、法廷に4分間のドラレコ映像。

(『讀賣新聞オンライン』2023年6月30日配信記事)

(31) 『学校では教えてくれないヤバい科学図鑑』(書籍タイトル／SBクリエイティブ2022)

(30) の「やばい」は、従来からの用法であり、「危険である／不都合である／格好悪い」という否定的な意味となるが、(31) の「やばい」は、「とてもよい／感動的な／楽しい」といった肯定的な意味合いで用いられている。なお、後者の意で使用されるようになったのは2000年前後⁵とされている。

⁵ 2001年度版の『現代用語の基礎知識』にて初めて正の意味である「ヤバい」が登場している(「魅力がありすぎる」という意味の記載が認められる)。

否定的意味を持つだけであったある語に肯定的な意味が加わるという側面について、阪口（2013）の先行研究を使って次節で述べる。

4. 否定的意味から肯定的意味への変換の背景の考察

阪口（2013）は、本来は否定的な意味しか持たなかった日本語の形容詞「やばい」が現在は元来の否定的用法に加え、肯定的な用法、肯定・否定性を持たない用法があることに着目し、その意味拡張と強調詞化に関して考察している。そして、阪口はこの考察過程の中で、メトニミーの1つとして否定的意味から肯定的意味への逆転現象を捉える VoBhagen（1999）の主張する反義関係を取り上げている。

阪口は以下のように記述している。

VoBhagen は意味の向上に関するメカニズムとして二価志向性（two-value orientation）に基づく相補化関係により近接性を得たことによるやや特殊ではあるがメトニミーの一つとして、否定的意味から肯定的意味への逆転現象を捉えている。

阪口はこう述べた上で、VoBhagen の主張する good-bad のように反義関係が不確定性（または不鮮明な境界線）を持つものとして図示した「スケール性を持つ反義関係」を引用し（図4）、VoBhagen 曰く、発話者が「悪くないね」という時に聞き手が「良い」という意味で捉えることが多く見られることを指摘していることを紹介している。

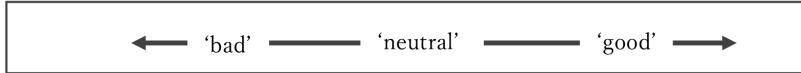


図4 スケール性を持つ反義関係 (Voßhagen, 1999, 293)

さて、阪口は Voßhagen の説明の妥当性を認めつつ、「やばい」の否定的意味から肯定的意味への逆転現象を説明するために、次のような補足をおこなっている。

意味の向上において、スケールドメインにおける概念化において否定的な程度性を持つ語はそこから否定性を捨象し抽象的なスキーマとして純粋な程度性を示す、即ち絶対的な程度性を抽出し、それがスキーマ的な節点として働き肯定的な程度性への拡張を促す。

この点についてはオノマトペである「バキバキ」「バッキバキ」の否定的意味である新用法 F が肯定的意味である新用法 H へと転義することに共通点がある。

再度、新用法 F と H の例文を挙げて、説明する（出典は省略する）。

新用法 F：〈(精神的に) ボロボロになる様子／打ちのめされる様子〉

- (19) 久々に心バッキバキに折れた。仕事にならんかった。こんなに何時間も泣いたことあったか？
- (20) 恋に落ちて告白したら「誰？」言われてバキバキにふられるやつじゃん！
- (21) 新刊に誤植があるのバキバキに凹む。

新用法 H：〈正真正銘の／真正の／典型的な〉

- (2) ぼくはバキバキ童貞です。
- (24) バキバキのダンスミュージックを教えてください。
- (25) カレー通絶賛！バキバキのスパイスカレー。
- (26) パフォーマンス中はバッキバキでかっこいいけど普段はポンコツで可愛い私の推し様です
- (27) バキバキ天然水！

上記の8つの例文中の「バキバキ」「バッキバキ」に共通して置き換えられる「絶対的な程度性」を示す語は「完全（に）」という語であると考えられる。すなわち、否定的意味である新用法 F から「完全（に）」という「絶対的な程度性」（共通スキーマ）が抽出されたのちに、肯定的な意味を持つ新用法 H への拡張につながったとみることができる（図5）。

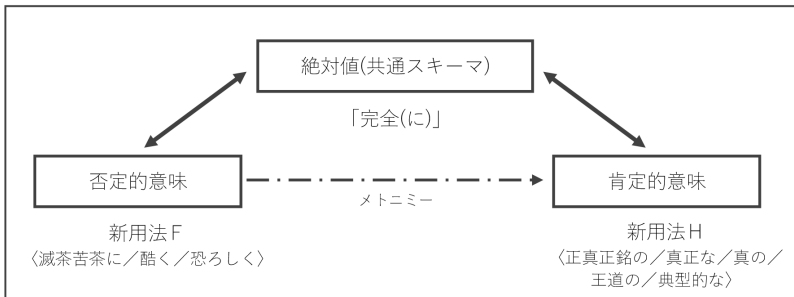


図5 否定的意味から肯定的意味への変換

ここまですを踏まえて、旧用法4種類と新用法4種類の相互関係を図で示す（図6）。

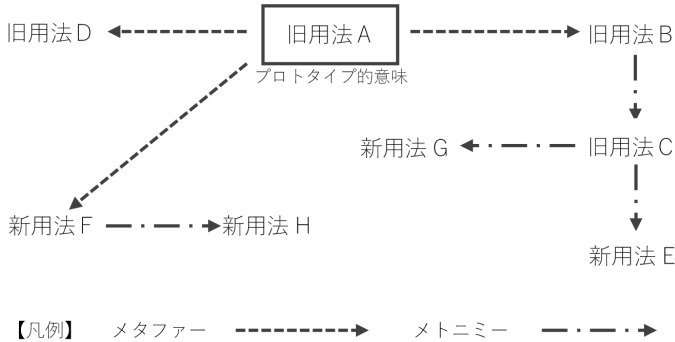


図6 「バキバキ」の旧用法・新用法の多義構造

5. 直観的プロトタイプと各用法の使用頻度

第一節で「『バッキバキ』は『バキバキ』という重複形オノマトベに促音を挿入することで意味的に強調しているに過ぎないと考えられるため、ひとまずは兩者について区別することなく取り扱うものとする」としたが、本節では兩者の直観的プロトタイプとされる用法が、実際に使用頻度の最も高い用法に相当するかを考えていく。

旧用法 A：〈かたい物などが折れたり壊れたりする音や様子〉【プロトタイプの意味】

旧用法 B：〈何かが振動したり、軋んだりして立てる音〉

旧用法 C：〈身体のある部位が凝り固まっている様子〉

旧用法 D：〈物事を勢いよく進める様子〉

新用法 E：〈腹筋がたくましく割れている様子／肉体が強靱な様子〉

新用法 F：〈減茶苦茶に／酷く／恐ろしく〉

新用法 G：〈(目が) 過剰に冴えわたったり、血走ったりする様子〉

新用法 H：〈正真正銘の／真正な／真の／王道の／典型的な〉

「バキバキ」の直観的プロトタイプはアンケート調査の結果、旧用法 A であると先に述べた（図1）。「バッキバキ」については前述した通り「バキバキ」に促音便を挿入した強調詞と考えられるため、こちらの直観的プロトタイプも旧用法 A と定める。

ここでは Twitter（現「X」）を活用して「バキバキ」と「バッキバキ」が用いられている最新のツイートを各 200 件取り出して、旧用法・新用法の計 8 種類のどれに相当するかを調査した⁶。

以下の図 7・図 8 はその調査結果である。

用法	タイプ	バキバキの ヒット数	率	バッキバキの ヒット数	率
旧用法	A	29	14.5%	24	12.0%
	B	6	3.0%	2	1.0%
	C	70	35.0%	80	40.0%
	D	15	7.5%	19	9.5%
新用法	E	39	19.5%	22	11.0%
	F	7	3.5%	17	8.5%
	G	16	8.0%	9	4.5%
	H	18	9.0%	25	12.5%

図 7 「バキバキ」「バッキバキ」の用法別使用数（各 200 件）

⁶ 「バキバキ」が文中に登場する 200 件の Tweet は 2023 年 7 月 17 日の 16 時 50 分から 18 時 19 分の間に取り出したものであり、「バッキバキ」の 200 件の Tweet は 2023 年 7 月 17 日の 13 時 58 分から 19 時 25 分の間に収集したものである。

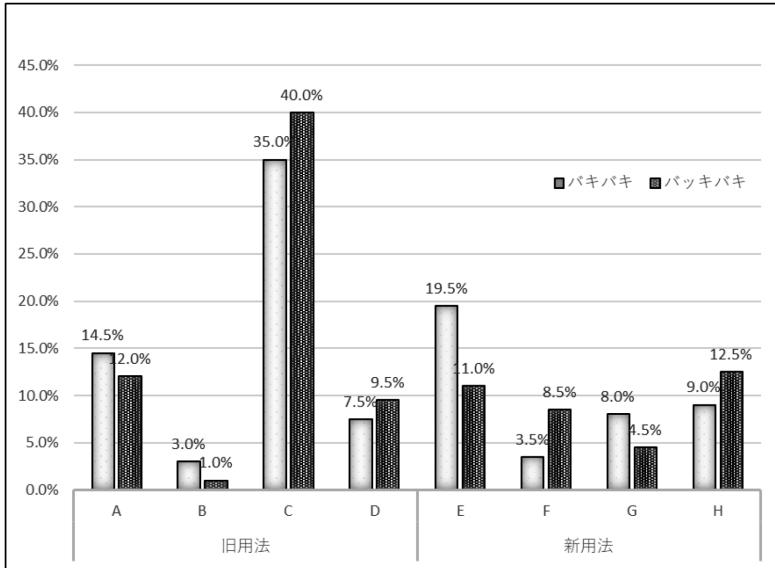


図8「バキバキ」「バッキバキ」の用法別使用率

この調査結果を見ると、注目すべきは「バキバキ」「バッキバキ」について直観的プロトタイプであると判定した旧用法 A の使用率は 14.5% であるのに対して、「バキバキ」の旧用法 C の使用率が 35.0% に上り、加えて、「バッキバキ」の旧用法 C の使用率も 40.0% と突出して高い。直観的プロトタイプと実際の使用頻度にズレが生じていることが分かる。

6. おわりに

本稿では、「バキバキ」「バッキバキ」の意味として、旧用法 4 種類、新用法 4 種類の計 8 種を見出し、それらの多義構造を明らかにした。また、新用法 F から新用法 H は否定的意味から肯定的意味への変換であることを指摘した。そして、「バキバキ」と「バッキバキ」の使用数・使用率を

調査した結果、直感的プロトタイプは実際の使用頻度とは乖離があることが明らかになった。

参考文献

- 李澤熊 2020 『日本語の意味研究の新たな扉を開く 意味分析の方法と実際』 開拓社
今井むつみ・秋田喜美 2023 『言語の本質 ことばはどう生まれ、進化したか』 中央公論新社
阪口慧 2013 「日本語形容詞「やばい」の意味拡張と強調詞化に関する一考察：認知言語学から観る意味の向上のメカニズム」『言語情報科学』第11巻、pp.19-35. 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻
篠原和子・秋田喜美 2019 「音象徴・オノマトペと認知言語学」『認知言語学大辞典』pp.405-416. 朝倉書店
Voßhagen, Christian. 1999. "Opposition as a Metonymic Principle." Klaus-Uwe and Panther and Günter Radden (eds.) *Metonymy in Language and Thought*. pp.289-308. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company
榎山洋介 2021 『[例解] 日本語の多義語研究 認知言語学の視点から』 大修館書店

参考辞書

- 斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）『明解言語学辞典』2015年、三省堂
『デジタル大辞泉 第二版』2012年、小学館
『日本国語大辞典 第二版』2007年、小学館
森山卓郎・渋谷勝己（編）『明解日本語学辞典』2020年、三省堂
山口仲美（編）『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』2003年、講談社

Polysemous analysis of onomatopoeias “*Baki-baki/Bakki-baki*”
and their Usages

YANO Kohei

Abstract

In this paper, based on the polymesy of the onomatopoeias “*Baki-baki/Bakki-baki*”, I first extracted the meanings of four old usages and four new usages from various example sentences, and identified their prototypical senses. Then, I analyzed the interrelationships of the eight meanings and illustrated their ambiguous structure.

The eight meanings are listed below.

Old usage A : 〈The sound of a hard object breaking or the state in which a hard object is broken〉

【prototypical senses】

Old usage B : 〈The sound made by something vibrating or creaking〉

Old usage C : 〈The state in which a certain part of the body is stiff〉

Old usage D : 〈The state in which things are put forward smoothly〉

New usage E : 〈The abdominal muscles strongly built up〉 〈Strong body〉

New usage F : 〈Messed up〉 〈Severely〉 〈Horribly〉

New usage G : 〈Excessively clear or bloodshot eyes〉

New usage H : 〈Genuine〉 〈Authentic〉 〈True〉 〈Classic〉 〈Typical〉

Next, I pointed out that there is a transformation from a negative meaning to a positive meaning between the new usage F and the new usage H. In explaining this, I used the antagonism asserted by Voßhagen (1999), which Sakaguchi (2013) discussed in his paper on the semantic expansion and the intensifier use of “*yabai*”.

Furthermore, as a result of investigating the number and the usage rate of “*Baki-baki/Bakki-baki*”, one point have become clear: there is a gap between the intuitive prototypical senses and the actual usage frequency.

In the future, I would like to conduct polysemous analyses of onomatopoeias, which have come to be used in recent years, and try to find commonalities and differences with the ambiguous structure of “*Baki-baki/Bakki-baki*”.

Keywords: “*Baki-baki/Bakki-baki*”, onomatopoeia , polysemous analysis, semantic extension